

# 子供たちに伝えたい日本のよき

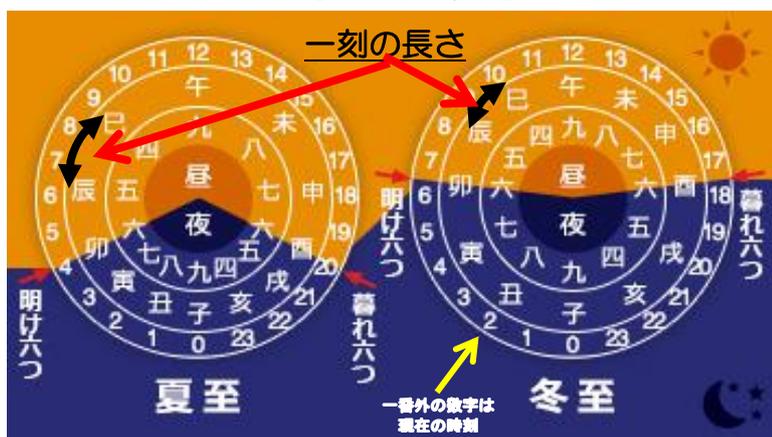
## こく 一刻の長さが変わる - 江戸時代の時間 -

江戸時代は、夜明けと日暮れを基準として、一日を「昼」と「夜」に分け、それぞれの長さを6等分して時刻を定めていました。これを、「不定時法」と言います。

昼（又は夜）の長さを6等分した一単位を「一刻（いっこく）」と呼びました（1日は十二刻）。一日のうちでも昼と夜の長さは違い、しかも季節によっても変わるので、一刻の長さは一定ではありませんでした。

※「夜明け」…日の出前の薄明かりの時間を含む 「日暮れ」…日没後の薄明かりの時間を含む

季節による一刻の長さの違い



Copyright© 2015,SEIKO HOLDINGS CORPORATION

今の時間で考えると  
【夏至と冬至の昼の長さの比較】

	現在の時間 (a)	一刻の長さ (b)
げし 夏至	約 16 時間	約 2 時間 40 分
とうじ 冬至	約 11 時間	約 1 時間 50 分

$(b = a \div 6)$

一刻の長さが約50分  
もちがいます。

現在、夜明けの時刻等は、季節等によって変わりますが、江戸時代は、常に「明け六つ」と呼んでいました。これは、当時の生活スタイルに合わせた時間の考え方と言えます。したがって、変わるの「一刻の長さ」となります。

季節等で一刻の長さが変わるということは、例えば、「学校で一刻分の授業を受ける」という場合、現在の時間で考えると、夏至では約2時間40分、冬至では約1時間50分勉強することになりますね。

# 今月のテーマ —生活のリズムに合わせた時計—

## 【夏でも冬でも、夜明けの時刻は「明け六つ」】

江戸時代の多くの人々は、夜明けとともに起きて、活動を始めるという生活を送っており、一年中、夜明けを「明け六つ」と呼び、時刻の基準としていました。

既に海外から伝わっていた機械時計の仕組みでは、夏は早く、冬は遅い夜明けの時刻を、常に「明け六つ」とすることができませんでした。そこで・・・。

当時の日本の技術者は、季節に関係なく夜明けを「明け六つ」とすることができる、生活のリズムに合わせた機械時計「和時計」を自分たちの手で製作しました。

## 【生活のリズムに合わせるための和時計の工夫】

### (1) 時計の針の進む速度を調節する方法

時計の針は、往復運動をする「棒てんぷ」というもので、動かしていました。時計の針の速度は「棒てんぷ」の左右にあるおもりの位置を動かして調整することができ、長さが違う「昼」と「夜」の一刻に合わせて、おもりを移動させていました。

### (2) 文字板の時刻の間隔を変える方法

#### 「割駒式文字盤」



Copyright©  
2015, SEIKO HOLDINGS  
CORPORATION

江戸後期になると振り子やひげゼンマイが使われるようになりました。これらの時計は、針の動く速度を簡単に変えられないため、十二刻の書かれた小さな文字板の時刻目盛の間隔を変えるようにしました。

※左の写真は、夏の文字盤で、昼（上の方）の時刻目盛の間隔が広く、夜（下の方）の時刻目盛の間隔が狭くなっています。

セイコーミュージアムの記事を基に東京都教育委員会で作成  
(<http://museum.seiko.jp/knowledge/wadokei/index.html>)

棒てんぷ



「初期一挺天符  
目覚付掛時計」

Copyright©  
2015, SEIKO HOLDINGS  
CORPORATION

こうして、日本独自の「和時計」を発達させていきました。

## 【参考（和時計の最高傑作 万年時計）】

1851年に製作された万年時計は、一年に一度ゼンマイを巻くだけで、一年中使える画期的な時計でした。当時の「不定時法」にも、現代の「定時法」にも対応できる表示面など、六つの各種表示面があります。

全体が連動して動く仕組みだけでなく、美しい装飾を合わせ持つ万年時計は、和時計の最高傑作と言えます。（文部科学省のホームページより）



画像提供  
国立科学博物館

画像：国指定重要文化財「万年自鳴鐘（まんねんとけい）」 国立科学博物館常設展示（（株）東芝寄託）

## 東京の伝統工芸品 - 村山大島紬 -

村山大島紬（むらやまおおしまつむぎ）は、主に武蔵村山市、瑞穂町、昭島市で製造されている、生糸を使用した織物です。

村山大島紬の始まりは、江戸時代後期とされています。大正に入り、綿織物の「村山紺緋（こんがすり）」と絹織物の「砂川太織（ふとおり）」の二つが合流して、絹織物としての村山大島紬が織られるようになりました。板締め注入染色法という独特の技術で染められた かすりいと 緋系を用いることが特徴です。

皆さんも、自分の生活している地域の伝統工芸品を探してみましょ



村山大島紬

### 【東京都伝統工芸品の指定制度】

下記の要件を備える工芸品について、「東京都伝統工芸品産業振興協議会」の意見を聴いて、知事が東京都伝統工芸品に指定しています。

- 製造工程の主要部分が手工的であること
- 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること
- 伝統的に使用されてきた原材料により製造されるものであること
- 都内において一定の数の者がその製造を行っていること



東京都知事指定伝統工芸品

東京都  
伝統工芸品のマーク

## 特色ある取組

### 【都立第五商業高等学校】

### 学校設定科目「体育・弓道」

#### 【弓道とは】

和弓で矢を射て、的を狙う武道です。もともとは、狩猟・戦い・儀式の際に行われていました。明治以降、心技体を鍛えることができることから、一般にも普及しました。

本校では、学校設定科目として「日本の伝統・文化」に関する選択科目として開講しています。

対象：第3学年の女子生徒

内容：①テキストや文献などから弓道の歴史などを学習

②基本的な姿勢や動作を練習

③射法八節（射の基本動作）

学習を通して、一通りの弓が引けるようにしています。

弓道の射技・射法を学ぶことで、「礼儀・作法」、「精神的な強さ」、「素直な心」などを身に付け、集中力や精神力の向上を目指しています。



## 伝統・文化に関するイベント等

### ★都立中央図書館

#### ○ シリーズミニ展示「高校生注目！～図書館で学べ～」

【期間】平成27年11月21日（土）から平成28年1月6日（水）まで

【場所】1階エレベーターホール

【内容】 話題沸騰中の『下町ロケット』の著者、池井戸潤（いけいどじゅん）氏の直筆メッセージを見に来ませんか！

今年11月から始まったこのシリーズミニ展示は、毎回、高校生のみなさんに向けて、テーマごとにおススメの本を御紹介しています。

今回のテーマは、「宇宙に挑む」です。開発に、謎に、ピンチにと、著者や登場人物が宇宙に挑む姿を迫力満点に伝える本や雑誌とともに、『下町ロケット』で池井戸氏が直木賞を受賞後、当館の企画展示に向けて寄せてくださったメッセージ2点を掲示しています。感動の直筆メッセージを御自身で確かめに、是非、御来館ください。



#### ○ 美術展関連・棚展示「村上隆と日本の現代アート」

【期間】平成27年12月4日（金）から平成28年1月6日（水）まで

【場所】3階人文・科学系資料・閲覧室 美術情報コーナー

【内容】 村上隆（むらかみ たかし）氏は、現在最も高い評価を得ている現代アート作家の一人です。港区の森美術館では、展覧会「村上隆の五百羅漢図展」が開催されています（平成28年3月6日（日）まで）。同展覧会では、絵画史上最大級の全長100mに及ぶ超大作「五百羅漢図」が日本で初公開されるほか、大型彫刻作品などが展示されています。

展覧会の御参考に、当館で所蔵している村上氏の著作、作品集、展覧会カタログを展示しています。併せて日本で活躍している現代アート作家の作品集などを御紹介します。

展覧会の御参考に、当館で所蔵している村上氏の著作、作品集、展覧会カタログを展示しています。併せて日本で活躍している現代アート作家の作品集などを御紹介します。



#### ○ ミニ展示—2020年へ向けての応援シリーズ「ブルキナファソ」

【期間】平成27年12月4日（金）から平成28年1月6日（水）まで

【場所】3階人文・科学系資料・閲覧室入口

【内容】 西アフリカ内陸の国、ブルキナファソは、現地語で「高潔な人々の国」という意味です。真面目な国民性などで知られるブルキナファソを当館の所蔵資料で御紹介しています。

### ★産業労働局

#### ○ 「世界に誇るMade in Tokyoの技と伝統～江戸から伝わる一筋の道～」

【期間】平成28年1月13日（水）から平成28年1月18日（月）まで

【場所】新宿高島屋11階 催会場

【内容】 東京の職人たちが技を生かして作り上げた工芸品の展示販売や職人の技と伝統を実際に体験することができる「製作体験コーナー」があります。そのほか、伝統工芸品が生活の中でどのように使われていたかを紹介するジオラマの展示などもあります。

※開催期間中、毎日午後2時から、スタッフがインタビューなどを交えながら、工芸品の見所を紹介する「ブースツアー」を実施します（申込不要、参加無料）。



詳細はHPを御覧ください（<http://www.metro.tokyo.jp/INET/EVENT/2015/12/21pc3300.htm>）

※本資料に対する御意見・御感想や、本資料の活用実践等がありましたら、以下担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきますと考えております。

【担当】東京都教育庁指導部指導企画課

電話 03-5320-6869

ファクシミリ 03-5388-1733